

○清流ミナモの未来づくり

「清流を守ろう、活かそう、伝えよう」を合言葉に、地域のNPO、学校、事業者、自治体等が取り組む環境保全活動を「清流ミナモの未来づくり」として登録。

登録数：40件（市町村、環境保全団体、事業者など30団体）

エ ギふエコ宣言の普及＜環境管理課＞

家庭部門における地球温暖化対策を推進するため、平成20年から県民一人ひとりに「ライフスタイルを変える」ことを提案する取組みを推進している。

平成20年6月の環境月間から、地球温暖化防止のための身近な取組み10項目をまとめた「ぎふエコ宣言～僕に、私にできる10の宣言」の賛同者の募集を開始した。宣言者数は、平成28年度末までに、211,490人（内訳1,148団体176,107人、個人35,383人）となった。

オ 環境にやさしいはし推進店の取組み拡大＜環境管理課＞

わりばしの使い捨てを見直し、繰り返し洗って使える「再使用はし」や国産材のわりばしなどの環境にやさしいはしを使用する「環境にやさしいはし推進店」（平成29年3月末現在、527店舗）の参加店舗を募集し、ホームページ等でPRしている。

カ ライトダウンキャンペーンの展開＜環境管理課＞

県内の主なライトアップ施設、事業者の看板照明や家庭の電気を消すよう呼びかける「ライトダウンキャンペーン」を行い、特に、6月21日（火）〔夏至の日〕と7月7日（木）〔七夕の日・クールアースデー〕の夜20時～22時の2時間、一斉消灯を行うキャンペーンを実施し、二酸化炭素排出削減に対する意識啓発を行った。

【夏至ライトダウン】 平成28年6月21日（火）

【クールアース・デー：七夕ライトダウン】平成28年7月7日（木）

第2節 環境社会を担う人材の育成

1 環境教育の担い手育成

(1) 体験を重視した教員研修の充実＜教育研修課＞

岐阜県先端科学技術体験センター（サイエンスワールド）において「先端科学技術体験講座（DNA、放射線）～先端科学にチャレンジ！遺伝子解析、放射線実験～」、「エコ・サイエンス体験講座（サイエンスワールド）～サイエンスワールドで楽しく専門的に学べる『プラスチックリサイクル』と『再生可能エネルギー』～」の2講座を開講した。また「博物館活用講座（岐阜県博物館）～博物館の魅力・活力が分かります！授業で役立つ教材開発とバックヤード見学～」では、身近な環境に関する調査、実験、新しい実践例を盛り込み、受講した教員が学校で児童生徒に体験させながら、環境の大切さや環境問題を分かりやすく理解させる手法の習得に努めた。

総合教育センターでは岐阜県森林文化アカデミーと連携し、「自然体験講座（森林文化アカデミー）～自然体験から見えてくる学びの本質～」の他、初任者研修において自然に触れる体験学習を実施した。

これらの研修講座には、自然や農業に関する体験学習に役立つ内容だけでなく、植物、森林が環境問題の解決に大きく関与していることを学ぶ内容も盛り込まれており、環境教育の一層の充実と推進が図れるよう配慮されている。

平成28年度の環境教育に関わる研修の受講者数は、延べ563名であった。

(2) 木育等の指導者育成

ア ギふ木育指導者の養成＜恵みの森づくり推進課＞

ぎふ木育を推進するため、幼稚園、保育園の保育士や小中学校、高等学校の教員、さらにはNPOなどを対象として、実際のプログラム体験、効果的な手法や必要となる知識・技術などの習得を図るための木育指導者研修を開催し、延べ327人が受講した。

イ 森林文化アカデミーを活用した人材育成＜林政課＞

森林文化アカデミーは「森林と人との共生」を基本理念として、岐阜県の広大な森林と豊かな自然をフィールドとした森林及び森林文化に関する実学を学ぶ専修学校である。特に、森と木のクリエイター科の森林環境教育・木育系科目では、環境教育への深い理解をベースにインタープリテーション（※）活動の総合的なデザインができ、その力を活かして自然環境保全や地域づくりに貢献できる人材育成を実施した。

平成28年度は森林文化アカデミーから31人の学生が卒業した。

※インタープリテーション：自然観察や自然体験などを通じ、自然や歴史について解説すること。

ウ 森林文化アカデミー森と木のオープンカレッジの開催＜林政課＞

岐阜県立森林文化アカデミーにおいて、一般の方々を対象に自然、環境、木工など、森林と森林文化に関する「森と木のオープンカレッジ」を実施している。平成28年度は26講座、64回開催し、計3,022人が受講した。

エ 岐阜県緑の博士の養成く恵みの森づくり推進課>

貴重な樹木の保護・保存を図るため、一定水準の知識・技能を身につけた岐阜県緑の博士(グリーンドクター)を養成・認定しており、平成7年度の認定開始から平成28年度末までに167名が認定されている。このうち最上級である3A級は8名となっている。

また、県民に対して樹木の保護・保存の基礎的知識を普及啓発するために、多治見市内において、緑の育成と樹木保護保存セミナーを開催した。

2 環境教育のコーディネートの実施

(1) 県が中心となった環境教育のコーディネートの推進

ア 清流の国ぎふ環境学習推進事業の展開<環境企画課>【再掲】

学校や地域における環境学習をより効果的かつ総合的なものとするため、環境学習の専門家を派遣し、体験学習の進め方や単元指導計画等についてのアドバイスや講義を行った。

平成28年度は、県下18小中学校等に対して、環境教育推進員等を計39回派遣した。

第3節 活動主体との連携と協働の推進

1 活動主体との連携と協働

(1) NPO法人等との協働

ア NPO法人等との協働<県民生活課>

「協働事業推進ガイドライン」に基づき、協働事業の提案にあたっては、NPOと行政との直接の意見交換を原則とするものの、助言などを必要とするときには、「協働総合窓口」を設置し対応した。

表2-1-1 特定非営利活動法人(NPO法人)の状況

(平成29年3月末現在)

区 分	～25年度	26年度	27年度	28年度	合計
県内法人数 [対前年比増加数]	752	18	1	7	778
うち定款で環境の保全を活動分野に掲げる法人数(*1)	281	7	△3	△3	282

備考) 1 県民生活課調べ
2 1つの法人が複数分野で活動している場合が多い。

イ 流域一体の清掃活動による河川清掃モデルの確立<環境企画課>

流域の環境保全団体等と関係機関との連携によって河川清掃の協働体組織を形成し、流域一体の河川清掃活動に取り組むことで、流域ごとの河川清掃モデルの確立と県民の河川環境保全意識の向上を図るため、長良川、揖斐川、土岐川の3流域において活動団体等のネットワーク化を推進し、それぞれの流域の河川清掃活動を支援した。この活動に連動し、別途、県管理河川内の樹木伐採や大型ゴミの撤去を実施した。

<長良川流域>

実施日:平成28年11月6日(日)、12日(土)、13日(日)、15日(火)

実施場所:羽島市、郡上市、関市、岐阜市、桑名市(5市5会場)

参加人数:各会場合計 約340名

ゴミ回収量合計:約1,400kg

<揖斐川流域>

実施日:平成28年5月28日(土)

実施場所:揖斐川町、大野町、池田町、大垣市、養老町、垂井町、輪之内町(7市町13会場)

参加人数:各会場合計 約2,800名

ゴミ回収量合計:軽トラック26台分

<土岐川流域>

実施日:平成28年8月21日(日)、10月16日(日)、30日(日)、11月6日(日)、12日(土)

実施場所:多治見市、瑞浪市、土岐市(3市5会場)